

恵那アカルイ森づくり講演会

スイスフォレスターが語る“自然に近い森づくり”のおはなし

「木が売れない…。山が荒れていく…。」

森林・林業をめぐるは、とかくクワイ話題の多い昨今。これからの森づくりは一体どうしたらいいのでしょうか？

欧州・スイスで始まっている“自然に近い森づくり”は、環境と経済を両立する持続可能な森づくりです。木材生産に加えて、豊かな水を育み、災害に強く、多様な生き物を養い、四季折々の変化が楽しめる多様性のある森。

そんな“アカルイ森づくり”の可能性を、スイスフォレスター（森林管理官）が語ります。

日 時：2017年6月24日（土）

9:30～12:00（9:00より受付開始）

会 場：中野方コミュニティセンター大会議室

（恵那市中野方町 1802-1）

講 師：ロルフ・シュトリッカー氏（スイスフォレスター）

※日本語通訳が付きます。

対 象：森林所有者、自伐林家、林業関係者ほか、
これからの森づくりに関心をお持ちの皆様

定 員：60名

参加費：2,000円

申込み：**事前申込みが必要です。**裏面の申込書をFAX
いただくか、必要事項をeメール等でお知らせ
ください。**6月17日（土）締切。**

主 催：NPO 法人夕立山森林塾・NPO 法人近自然森づくり協会

協 力：中野方水源の森実行委員会

後 援：恵那市



▲講師のロルフ・シュトリッカー氏
（プロフィール詳細は裏面参照）

■講師



Rolf Stricker (ロルフ・シュトリッカー)さん

スイス連邦チューリッヒ州バウマ村（旧ヴィラ村/シュテルネンベルグ村）フォレスター

スイスのフォレスターは、スイス連邦が認定したフォレスター学位の取得者で、市町村の公務員であり、総合的な森林管理を行うコーディネーターである。その仕事は、地域の森林を管理経営するための計画立案、森林所有者との交渉、森林作業の発注、製材所との交渉など多岐にわたる。人件費は日本の約2倍、日本と同様に急峻な地形、木材価格が低迷を続けるスイスにあっても、彼の担当区は黒字経営を続け、地域住民から厚い信頼を得ている。

林業にいち早くエコロジーの思想を持ち込み、環境貢献と林業経営の両立に20年以上にわたり取り組んでいる彼のことを、フォレスター仲間は「グリーン・フォレスター」と呼んでいる。

■通訳兼コーディネーター



山脇 正俊（やまわきまさとし）さん

スイス近自然学研究所 代表

スイス連邦チューリッヒ州に39年在住。スイス連邦工科大学・チューリッヒ州立総合大学講師、近自然森づくり研究会特別顧問、環境・オーデオコンサルティング。スイスとドイツで1970年代に始まった環境と人間の豊かさの両立を追求する「近自然川づくり」に出会い、以降その思想を体系化した「近自然学」を確立。近自然学は川づくりのほか、道づくり、まちづくり、エネルギー利用、農業、林業、教育、ビジネス、社会システムなどの分野にも応用されている。2010年にはシュトリッカー氏と「近自然森づくり」の考え方を日本に紹介し、その普及を進めている。

FAX：0573-25-7230（NPO 法人夕立山森林塾 宛）

参加申込書（6/24 スイスフォレスター講演会）

お名前		電話番号	
ご住所			
昼食	弁当（お茶付き・¥700） → 必要 ・ 不要 （○をつけてください。）		

【お問合せ・お申し込み先】

NPO 法人夕立山森林塾（担当：岡田）

FAX：0573-25-7230

電話：090-5860-4873 eメール：toshiokadawill@me.com